

中四国の城跡・城下町遺跡で出土した動物遺存体

遺跡名	時期	遺跡の性格	動物遺存体の種類				備考
			貝類	魚類	鳥類	哺乳類	
高松城跡(高松北警察署)SK23	17世紀中頃	上級武家屋敷跡(トイレ状遺構)	ヤマトシジミ(20-21mm)、アカニシ(110mm前後)、サザエ、ハマグリ(40mm前後)、サルボウガイ、インダタミ、ハイガイ、カガミガイ、マガキ、テングニシなど	マダイ亜科 スズキ、メバル科、フサカサゴ科、ハタ科、コチ科、ヒラメ科、サケ属、エイ・サメ類、ハモ属など、スッポン	ニワトリ カモ科、サギ科、キジ科、コウノトリ	ニホンジカ、イノシシ類、アナグマ、ノウサギ	
高松城跡(高松北警察署)SK24	17世紀後半	上級武家屋敷跡(廃棄土坑)	アカニシ(100-140mm)、サザエ(80mm前後)、ヤマトシジミ(20-25mm)、ハマグリ(40mm前後、70mmを越す個体もある)	マダイ亜科、スズキ、ハタ科、フグ科、フサカサゴ科またはメバル科、スッポン	ニワトリ、カモ亜科	ニホンジカ、イヌ、ネコ	
高松城跡(高松北警察署)	17世紀中頃～18世紀	上級武家屋敷跡(その他の遺構)	サザエ、アカニシ、ハマグリ、ヤマトシジミ、サルボウガイ、アワビ類、イタボガキ	マダイ亜科、スズキ属、フグ科、ハタ科、ナマズ、サワラ属、フサカサゴ科またはメバル科、スッポン	ニワトリ	ニホンジカ、イヌ	
中之島蔵屋敷跡	18～19世紀	高松藩大坂蔵屋敷跡	ハマグリ(33%)、シジミ類(25%)、アカニシ(17%)、アワビ類(8%)、アカガイ(6%)サザエ(5%)	(記載なし)	(記載なし)	(記載なし)	19世紀前半から後半にかけてハマグリが減少しシジミ類が増加する。他藩の蔵屋敷に比べ、アカニシの比率が高い
新蔵屋敷(徳島県)	17世紀中葉～19世紀	上級武家屋敷跡	ハマグリ、サザエ、アカニシ、ヤマトシジミ、アワビ属	マダイ(37%) スズキ、ハモ族、コチ科、カツオ、タラ科、ミシマオコゼ科など13種	カモ科(42%)、ニワトリ、キジ科、コウノトリ科、カラス科、ツル科など	イヌ(44%)、ニホンジカ、ネコ、ウシ、ノウサギ、イノシシ、ニホンザル、ウマなど	魚類は近海ものが主体。カツオ(徳島南部太平洋沿岸か)、タラ科(日本海沿岸)など遠隔地のは少ない。マダイには頭部に兜割の痕跡、胴部は切り身にした痕跡がある。カモ科は翼の部位が多く出土。イヌは19世紀中葉以降の遺構で解体痕がある。ニホンジカは四肢骨が多数
徳島城下町遺跡(中徳島町1丁目地点)	17～18世紀	武家屋敷	マダカアワビ、サザエ、ボウシュウボラ、テングニシ、ハマグリ、アカガイ、アカニシ、ヤマトシジミ	スズキ、マダイ、アマダイ属、フエフキダイ属、ブリ	ニワトリ、カモ科、キジ属	ニホンジカ、イノシシ類、イヌ、ネコ	海産物は吉野川河口より外海にかけての沿岸で採取できるものである。ニワトリは四肢骨に限定されており、解体後に搬入されたものと考えられる。
新蔵町3丁目遺跡(徳島県)	17～19世紀	武家屋敷	(記載なし)	ハタ科、マダイ	ガンカモ科、ニワトリ、ゴイサギ、ツル科	イノシシ類、ニホンジカ、ウシ、ウマ、イヌ	ニワトリは解体痕があるものが多数。
愛媛県県民会館跡地	18世紀末～幕末	武家屋敷	アサリ、ハマグリ、アワビ、アカニシ 淡水産はシジミガイ科などごくわずか	マダイ亜科(30～40cm)、スズキ、ヒラメ科、コチ科、フサカサゴ科、ハタ科、ホウボウ科、スッポン	サギ科、コウノトリ科、ガン科、キジ科(ニワトリ含む)、タカ科、カラス科	ニホンジカ、イノシシ類、イヌ、ノウサギ、	魚類は瀬戸内海で漁獲された可能性が高い。ニホンジカは四肢の部位が多い
岡山城本丸下の段	17世紀第1四半期	本殿御殿の食物残滓	(記載なし)	マダイ(39.4%) スズキ(33.4%)、エイ類、アナゴ、ハモ、コノシロ、コイ科、ナマズ、マダラ、フサカサゴ科、コチ、ハタ科、クロダイ等	ガンカモ科、キジ科(出土量は少ない)	ニホンジカ(出土量は極めて少ない)	上級武士の日常の食事を示していると考えられる。魚類が主体、鳥類、哺乳類は少ない。魚類は種類が豊富で、瀬戸内海で獲れるものが多く、マダイとスズキが特に多い。マダイはやや小さめで頭部の兜割の痕跡が目立つ。

遺跡名	時期	遺跡の性格	動物遺存体の種類				備考
			貝類	魚類	鳥類	哺乳類	
岡山城本丸中の段	下層期(17世紀前半)	岡山城表書院	アカニシ、サザエ、ハマグリ、アワビ、アカガイ、タイラギ、カキ、ハイガイ、テングニシ、タニシ	(記載なし)	(記載なし)	(記載なし)	
	上層期(17世紀前半以降)	岡山城表書院 儀式的色彩の強い食事を準備した場所	ハマグリ、シジミ、サザエ、アカガイ、アカニシ、アワビ、カキ、タニシ、アカガイ、ハイガイ、テングニシ	マダイ(30~40cm)、スズキ、フサカサゴ科、コチ、アイナメ、ハタ科、コイ、エイ・サメ類、ヒアメ、ヘダイ、フグ科、アナゴ、イシダイなど	ガンカモ科、サギ科、キジ科	イノシシ、ノウサギ	上級武士の公的色彩の強い食事の内容を示していると考えられる。魚類は瀬戸内海沿岸で漁獲された可能性が高い。マダイは調理痕から兜煮に調理されたと考えられる。マダイ、スズキのサイズはやや小さめ。哺乳類の出土は少ない。
岡山城二ノ丸跡	17世紀前半	武家屋敷	アカニシ、サザエ、ハマグリ、ハイガイ	マダイ、ボラ科	ニワトリ、	ニホンジカ、ウシ、イノシシ、イヌ、ネコ	哺乳類がやや多い。シカ、イノシシは四肢骨が多い。
	江戸時代末~明治時代初頭	武家屋敷	(記載なし)	マダイ	キジ属、ガンカモ科	イヌ	
天瀬遺跡(岡山県)	江戸時代	城下町	アカニシ、サザエ、ハマグリ、ヤマトシジミ、アカガイ、ハイガイ、トマヤガイ、イタボガキ科、イタヤガイ	マダイ、エイ目、ナマズ、スズキ、ボラ科、フサカサゴ科、フグ科、ハモ属、ヒラメ科、スッポン科	キジ属、ニワトリ、アオサギ、ガンカモ科	ウマ科、イノシシ属、ニホンジカ、イヌ、ネコ、ニホンザル	ニホンジカが多い 丁寧に食肉加工されている
広島城跡法務総合庁舎地点	17世紀初~19世紀中	武家屋敷	アワビ類(15cm程度)、サザエ(6~7cm)、アカニシ(7~8cm)、バイ、テングニシ、アカガイ、サルボウガイ、ハイガイ、イガイ、イタヤガイ、マガキ、ヤマトシジミ、オキシジミ、カガミガイ、アサリ、ハマグリ、	ハモ属、フナ属、マダラ、ボラ科、フサカサゴ科、コチ科、スズキ(50cm大)、ハタ科、ブリ属、アジ科、クロダイ属(20cm大)、マダイ(25~35cm)、キダイ、ニベ科、コブダイ、カツオ、マグロ属、サバ科、ヒラメ、カレイ科、フグ科	キジ科(ニワトリ含む)、カモ科	イヌ、ネコ、イノシシ、ニホンジカ、ウシ、ノウサギ	魚類はマダイが突出して多く、解体痕があるものが多い。カツオ、マグロ属など遠方から運ばれたものもある。
広島城跡太田川河川事務所地点	江戸時代	武家屋敷	アサリ、ハマグリ、サザエ、シジミ科、シオフキガイ、カガミガイ、イタヤガイ、サトウガイ、アカガイ、カキ類、アワビ類	マダイ・マダイ亜科、クロダイ属、フサカサゴ科、コチ科、スズキ属、ブリ属、ウツボ属、カレイ科、フグ科、カツオ、コイ科、ナマズ、アユ、スッポン	カモ科、ニワトリ、キジ、ミズナキドリ類、サギ類、	ニホンジカ、イヌ、ウシ、イノシシ類、ネコ	貝、魚類が大半。いずれもほとんどが瀬戸内海近海で漁獲された可能性が高い。ブリ、カツオは太平洋で捕獲されたものであろう。城下の武家屋敷で認められる一般的なもの。
松江城下町遺跡	17~18世紀	有力家老の屋敷地	アワビ類、サザエ、マガキガイ、アカニシ? バイ、テングニシ、サルボウガイ、イガイ、イタヤガイ、マガキ、イタボガキ科、ヤマトシジミ、アサリ、ハマグリ、	サメ類、コイ、タラ科、ボラ科、コチ科、スズキ属、マダイ亜科(45~50cm)、ベラ科、フグ科、スッポン	カモ亜科、ウ科、キジ科(ニワトリ含む)、ガン属、カイツブリ科、サギ科	イヌ、ネコ、イノシシ類、ニホンジカ、ウシ、ノウサギ	マダイ亜科、スズキ属は日本海産のもの。カモ亜科は上肢、上肢帯の骨が多い